



ママにも休日を・・・“ママの休日倶楽部”

～知る人ぞ知る名湯を核にした秋川渓谷の自然体験王国づくり～

帝京大学 経済学部 観光経営学科 大下ゼミ

外国人観光客のお気に入りNo.1の新宿から約60分でJR武蔵五日市駅。そこは、ハイカーやサイクリスト達が集まる自然体験王国の入口。今回は知る人ぞ知る名湯「瀬音の湯」での宿泊体験をレポートします。

■自然体験の知られざるスポット「秋川渓谷」

慌ただしく人が行き交うイメージの東京。そんな東京に、しかも都心から約60分で自然の中に身を置くことのできる場所があります。それが秋川渓谷です。

東京都檜原村からあきる野市に及び全長約20kmを「秋川渓谷」と呼んでおり、そこには、四季折々の植物に加えて、その大自然がジオパークの対象ともなっています。沿川では川遊びや鮎釣り、バーベキューなど自然の中でアウトドアが体験でき、さらに、ちょっと高価ですが秋川牛、そして新鮮な野菜も豊富です。都会の喧騒から離れて、少し羽を伸ばせる東京の「奥」「秘」の場所が、現在注目を集めています。

■お肌がツルツル・名湯「瀬音の湯」

そのような素敵な大自然に囲まれた秋川渓谷の核とも言えるのが名湯「瀬音の湯」。年間24万8千人(平成29年度調査)に利用されています。実はこの瀬音の湯、昨年7月～10月に行われた「温泉選挙2017」のうる肌部門において全国3位に選ばれるほどの名湯。第3位という控え目であることが“秘”であることの所以でもあるのです。

「落ち着いた雰囲気の中で穏やかな時間を過ごせる」という声も多く、今年もランクインが確実視されると思います。施設も清潔感と高級感があり、ちょっとした贅沢体験を感じることができます。また、外に足湯もあるので、バスの待ち時間に景色を楽しみながら時間を過ごすスキマ時間にぴったりです。私たちが調査したところ(2018年5月20日・21日;125人から回答)、2時間～4時間の滞在時間の来訪者が48%、4時間以上が11.2%と、多くの方々がのんびりと時間を過ごされていることが分かりました。やはり時間を忘れそうになる空間となっていたのです。地元の方や市外からのリピーターも多く、地域に愛されている名湯であることが伺えます。

■廃校・温泉・自然景観等をパッケージした自然体験王国への展開に期待

あきる野市では「あきる野ふるさとプラン～あきる野市観光推進プラン」を策定し、行動計画に基づいた観光客の受入環境整備に取り組んでいます。瀬音の湯周辺の地区は、「温泉などの観光施設や山里を生かしたおもてなしの地域づくり」と位置づけています。

今回の調査で私たちが焦点を当てたのは、廃校を活用した施設です。一つは、廃校を改装し企業等の団体向けの宿泊施設となった「戸倉しろやまテラス(瀬音の湯と同じ企業の管理)」, もう一つは自然体験事業に力を入れた「小宮ふるさと自然体験学校(市営)」, さらに、地域のNPOが運営している軍道紙(和紙)の紙すき体験のできる「あきる野ふるさと工房」も隣接地にあります。

秋川渓谷沿いの地形の成立ちや自然環境、文化体験のできる施設、美人の湯等、地域の魅力を知ることのできる情報発信や体験の予約システムが一元的管理されたならば、都心直結のふるさと環境・自然王国は、確実にブレイクするのではないのでしょうか。

働き方改革が言われているいま、家族でドライブ、そしてママは美人の湯(瀬音の湯)でのんびりしている中、父子が秋川渓谷を自然探訪する姿、それが「ママの休日倶楽部」。そんな新しい観光のスタイルが広がる秋川渓谷に期待しています。 担当(高林・丹羽・田子)



年間約25万人が利用している瀬音の湯。
“美人の湯”とも言われています。



瀬音の湯周辺の秋川渓谷沿いの「周辺田舎マップ」。
瀬音の湯のエントランスに掲示されています。



秋川渓谷は清流。暑い夏は水遊びしたくなる環境です!!



四季折々の秋川渓谷・自然体験王国のイメージカット
(柏木先輩の作品です)。